



かけはし

管内6市町の幼・小・中・義務教育学校と北部教育事務所をつなぐ架け橋を目指します。

宮城県北部教育事務所 指導班だより 令和6年3月21日(木) 第5号

協働の授業づくり 所長 齋藤 卓也

今回は思い出話と、次年度に向けたお話を少し。
 平成15、16年度、仙台管内の小学校で研究主任をしていた時の話です。外部から講師を招き、指導助言を受けながら授業改善を図るという研究指定に取り組みました。授業学年の先生たちを私の車に押し込め、協力をいただいていた大学の先生の研究室まで通い、1回目は、学習指導要領や教科書の紙面構成の意図と子供たちの実態の確認など、2回目はそれらを基に授業学年で構想した指導案についての検討を主に行いました。3回目は来校してもらい授業参観と事後検討会を行いました。指導助言の効果はもちろんですが、その道中で授業について、受けた助言について話しかけたことが大きかったと感じます。最初は、遠慮がちだった先生方も回を重ねるごとに目の色が変わり、自分の思いや考えを出すようになり、車の中での話し合いも熱を帯びてきたことを今でも鮮明に覚えています。
 これが、次年度試行する「指導主事参加型協働の授業づくり」の原点です。指導班も皆さんと一緒に授業づくりができることを楽しみに、それぞれの専門性にさらに磨きをかけますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ともに 副参事・班長 千坂 佳織

学校訪問で4時間目の授業を見せていただいた時のことです。教室は心地よい「モヤモヤ感」が漂っていました。2年生の子供たちは国語で「ふたが『あかない』」の『開かない』の反対語を考えていました。
 「開く?」「閉まらない?」「閉まる?」「う～ん、なんだろう?」一生懸命、反対の意味をあらわす言葉を考えます。頼れるのは学級の仲間だけ。もはや、何が正解なのか分からず、「モヤモヤ感」が更に増してきました。「だってさ～」と、友達に説明しようとする子供も出てきました。授業者は初任の先生です。「さて、先生はどうやってこの場を切りぬけるか」と私は微笑ましく見ていました。すると、先生は、さっと机の横に掛けていた水筒を取り出し、「開かない!開かない!」と実演を始めました。すると、どうでしょう、子供たちは「あ～『閉まらない』だ」と、あっさり納得してしまったのです。「モヤモヤ感」が「爽快感」「納得感」に変わった瞬間でした。勉強って楽しい!みんなで考えるって楽しい!と実感している子供たちの姿を目の前にした先生その時の気持ちどのようなものだったかを想像するに難くありません。初任の先生と子供たちのあたたかな授業風景が忘れられません。
 これからも、管内の先生方と「一緒に学び、考え、伴走できる指導班で在りたい」、そう思います。今年度もありがとうございました。

学力向上緊急プロジェクトチーム事業授業研修動画の活用について

令和6年2月29日付で、宮城県教育委員会から「学力向上緊急プロジェクトチーム事業授業研修動画の活用について(依頼)」の文書が各市町教育委員会宛てに発出されました。
 「研修動画活用に当たって」には、動画の視聴に当たって参考にいただきたいポイント3つが示されております。

- 1 「子供にどんな力が身に付いているのか」を見る
 ～子供の姿を見取る力～
- 2 「授業者のねらいはどこにあるのか」を見る
 ～単元構成、授業展開を見取る力～
- 3 「これまでの自らの授業はどうだったか」を振り返る
 ～自らの授業を省察する力～

私たち教師に必要な力ですね。
 本プロジェクトチームは、今求められる授業の姿を目指し、検討を重ね、動画でお示ししている授業を展開してきました。この動画は授業改善のための一つのきっかけと考えております。先生方には、この動画の視聴を通し、子供たち一人一人のために今求められている授業を目指し、今後も授業づくりを進めていただけたらと考えております。

一年間お世話になりました!!

令和5年度指導班! 全員集合

